

# 日本糖尿病学会(日本産科婦人科学会)及びWHOの妊娠糖尿病の診断基準における周産期合併症の比較検討

著者	菅谷 亜弓, 杉山 隆, 中山 愉紀子, 日下 秀人, 豊田 長康
雑誌名	糖尿病
巻	43
号	suppl. 1
ページ	S-203
発行年	2000-04-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10076/2763">http://hdl.handle.net/10076/2763</a>

II-A-01 日本糖尿病学会（日本産科婦人科学会）およびWHO  
の妊娠糖尿病の診断基準における周産期合併症の比  
較検討

三重大学医学部産科婦人科

菅谷重弓、杉山 隆、中山愉紀子、日下秀人、豊田長康

【目的】今回、日本産科婦人科学会（日産婦）およびWHOのGDMの診断基準における周産期合併症の発生率の相違を比較検討した。【方法】対象は13施設で妊娠中に75gOGTTを施行された416例で、WHOの糖尿病の基準を満たすものをA群、日産婦のGDMを満たすがWHOの糖尿病の基準を満たさないものをB群、WHOのGDMを満たすが日産婦のGDMの基準を満たさないものをC群、その他をD群とした。【結果】A群は他の3群に比し新生児低血糖が、C、D群に対し早産、帝王切開、heavy-for-dates児、新生児呼吸障害、低アプガースコアの頻度が有意に高かった。B群はC、D群に比し、新生児呼吸障害、低アプガースコアが、D群に比し早産、帝王切開の頻度が有意に高かった。妊娠中毒症、先天奇形、巨大児の頻度では各群間に有意差は認められなかった。【結語】日産婦のGDMの診断基準は周産期合併症を考慮に入れると妥当であると考えられる。